

# 西 海 潤 遺 跡

## 第2次発掘調査報告書

1 9 9 2

山 形 県  
山形県教育委員会

# 西 海 渕 遺 跡

## 第2次発掘調査報告書

平成4年3月

山 形 県  
山形県教育委員会

## 序

本書は、平成3年度に山形県教育委員会が発掘調査を実施した西海潟遺跡の調査成果をまとめたものです。

西海潟遺跡は県中央部のやや北側に位置する村山市北西部の富並地区に所在し、遺跡周辺は自然の豊かに残るのどかな田園地帯となっています。

調査では遺跡域の北端部分を対象とし、第1次調査の結果から予想された範囲内に整然とした形で大型住居跡をはじめとした遺構群が姿を現しました。その内容は本報告書に書き留められている通りですが、放射状に配置された大型の住居群とその外側に取り付く掘立柱建物跡群などに特徴が見られます。これらは、見る人の心の引き付け、否応なく当時の暮らししぶりに思いを馳せさせてくれるに充分なものがあったと考えています。

遺跡は一度壊してしまえば二度とは元に戻らないものです。埋蔵文化財は私たちの祖先が長い歴史の中で創造した貴重な国民的財産といえるもので、調査により明らかにされた内容は過去の村や生活の有様を彷彿と再現してくれるものでした。

こうした祖先の歴史を学ぶとともに愛護し子孫へと伝え残していくこととは、現代に生きる私たちに課せられた重要な責務の一つといえるでしょう。

山形県教育委員会では、「心広くたくましい県民の育成」と地域文化の環境作りを進めるために、今後とも県民福祉の向上を目的とした地域社会の整備と調整をはかりながら、埋蔵文化財の保護に努力を継けていく所存あります。

本書が埋蔵文化財に対する保護思想の普及もかねまして、皆様のご理解の一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査に御協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成4年3月

山形県教育委員会教育長 木場 清耕

## 例　　言

- 1 本報告書は山形県教育委員会が山形県農林水産部の委託を受けて平成3年度に実施した「県営は場整備事業富並地区」に係る西海渦遺跡の第2次発掘調査報告書である。
- 2 調査にあたっては、村山平野土地改良事務所・大高根土地改良区・村山市教育委員会の各関係機関から多大の協力を得た。ここに記して感謝申しあげます。
- 3 遺跡の所在地・調査期間・調査体制等は以下の通りである。

西海渦遺跡(CMYSB-II) 遺跡番号617(山形県遺跡地図)

- |         |   |
|---------|---|
| 所 在 地   | 山形県村山市富並字西海渦  |
| 現 地 調 査 | 平成3年4月18日～平成3年6月14日(延べ36日)  |
| 調 査 主 体 | 山形県教育委員会  |
| 調 査 担 当 | 山形県埋蔵文化財緊急調査団   |
| 調査担当者   | 事務局長補佐 佐々木洋治(調査担当)  |
| 現場班長    | 阿部 明彦   |
| 主任調査員   | 黒坂 雅人   |
| 事 務 局   | 事務局長 土門 紹穂  |
|         | 事務局長補佐 田苗健太郎  |
|         | 庶務班長 野尻 優   |
|         | 主任事務員 新闇 紘子・賣間 秀男・永井 健郎・渋江 正義   |
| 4       | 本報告書の作成は、阿部明彦・黒坂雅人の両名が担当し、挿図・図版の作成補助には岩田しげ子・大泉智恵子・進藤純子・鈴木聖子・平井あや子・渡辺あつ子・三浦美奈子・三沢友子・熊谷香代子があたった。また、編集は阿部明彦・安部 実が担当し、全体について佐々木洋治が総括した。 |
| 5       | 諸記録類・出土遺物については、山形県教育委員会が一括して保管している。   |

## 凡　　例

- 1 本報告書に収録した遺構の縮尺は1/40・1/80・1/100を基本とし、それぞれにスケールを付した。遺物は実測図及び写真共に繩文土器が1/6、土製品類及び打製石器が1/2、磨製石器1/3、疊石器1/4を基本として採録した。また挿図及び本文中で用いた略記号は、ST：住居跡、SK：土塙、SD：溝跡、E：遺構の構成因子(ED：周溝、EP：柱穴等)、SX：性格不明遺構、RP：土器・土製品、RQ：石器・石製品等である。
- 2 本報告書中の遺構平面図・断面図での表示基準は概ね以下の通りである。  
遺構平面図中的方位は磁北を示す。平面図中の網掛けは焼土等(焼面)・炭化物・貼床等の範囲を表した。なお断面図等での土色注記は昭和45年度版農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

## 目 次

### 序・例言

I 調査の経緯		IV 検出された遺構と遺物	
1 調査に至る経過.....	1	1 検出遺構.....	6
2 調査の概要.....	1	2 出土遺物.....	7
II 遺跡の立地と環境.....	3	Vまとめ	
III 遺跡の概観		1 第1次調査の概要と成果.....	8
1 調査区と層序.....	4	2 第2次調査の概要と成果.....	8
2 遺構と遺物の分布.....	4		

## 挿図目次

第1図 調査概要図	第15図 土製品実測図
第2図 遺跡位置図	第16図 土器実測図(1)
第3図 土層柱状図	第17図 土器実測図(2)
第4図 遺構配置図	第18図 土器実測図(3)
第5図 ST168住居跡	第19図 土器実測図(4)
第6図 EL231炉跡	第20図 土器実測図(5)
第7図 ST161・ST111住居跡	第21図 石器実測図(1)
第8図 ST89・ST325住居跡(1)	第22図 石器実測図(2)
第9図 ST89・ST325住居跡(2)	第23図 石器実測図(3)
第10図 ST21住居跡	第24図 石器実測図(4)
第11図 ST241・ST165住居跡	第25図 石器実測図(5)
第12図 ST187・ST188・ST192住居跡	第26図 石器実測図(6)
第13図 土壙実測図(1)	第27図 遺跡全体図
第14図 土壙実測図(2)	

## 図版目次

図版1 調査区全景・近景· ST21完掘状況他	状況·SK323土層断面·SK134-RQ 3出土状況·SK160完掘状況
図版2 ST89完掘状況·ST89EL88· ST325-ST111他	図版6 出土土器(1) 図版7 出土土器(2)
図版3 ST161-ST161EL254-SK276· EL231-ST168他	図版8 出土土器(3) 図版9 出土土器(4)
図版4 ST165-ST187-ST188· ST192	図版10 出土石器(1) 図版11 出土石器(2)
図版5 SK28土層断面·RP4出土状況· SK29土層断面·SK169RP2出土	図版12 出土石器(3)・土石製品 図版13 出土石器(石皿・石棒・凹石・磨石)

## I 調査の経緯

### 1 調査に至る経過

村山市の北西部に位置する富並地区には山形県を代表する幾つかの重要な縄文時代集落跡が点在している。時期的に古い順から列挙すれば、富並川上流部、山ノ内地区のガンジャ遺跡や岩倉遺跡は早期中葉と中期後葉、同中流部左岸の古道遺跡や中山遺跡は中期中葉から同後葉期、近年調査された富並川と最上川の合流点近くに位置する川口遺跡はその豊富な遺物から後期中葉前後の拠点集落として注目される。一方、これら流域に展開する遺跡群は、近年の継続的な県営圃場整備事業等の進展に伴って開発の波を直接にしかも広範に受ける状況が差し迫り、遺跡の保存を含めた対策が早急な課題として浮上している。

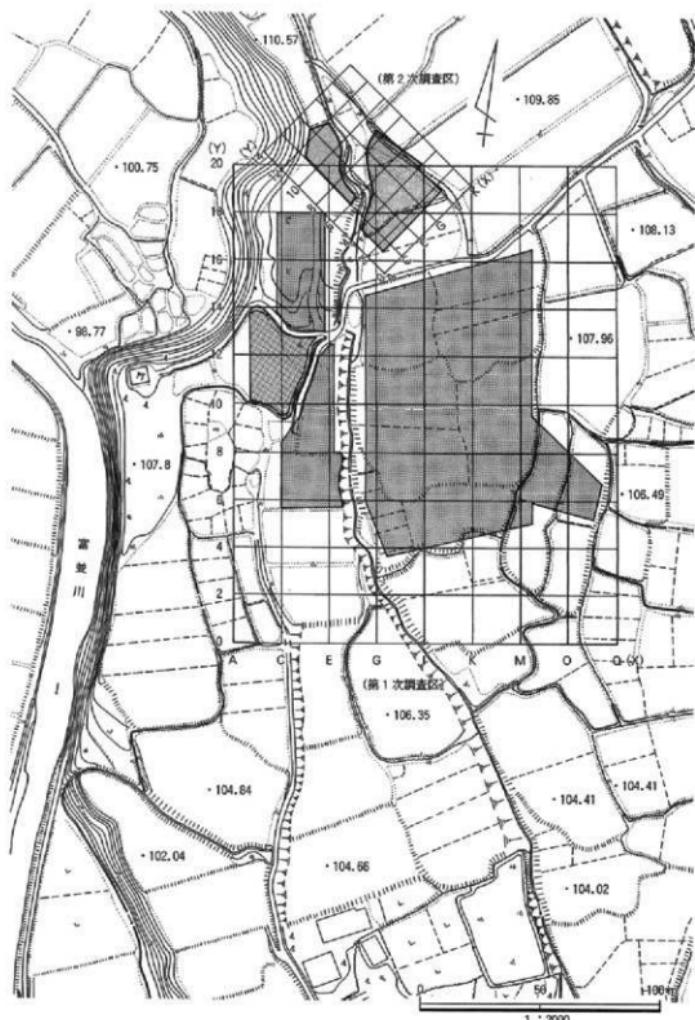
これまでにも開発に先行して記録保存の目的から早房D遺跡や川口遺跡などの緊急発掘調査が事前に県教委の手によって行われ多くの考古学的成果が挙げられている。

今回の調査も平成3年度に予定される県営圃場整備事業（富並地区）に係ることから発掘が計画されたものであったが、これに先立つ平成元年秋には分布調査を行って遺跡の拡がりや保存状況などが把握された。また、この結果は関係各機関に周知されて保存と開発の両面から協議されたが、やむを得ず壊れると判断された所については記録保存の措置を講ずるとの一応の結論が得られたことから緊急調査が行われる運びとなったものである。

### 2 調査の概要

調査は始めに遺跡全体をカバーする $5 \times 5\text{ m}$ を1単位とするグリッドの設定から始め、その基準は第1次調査時のG-18杭を用いた。今回の調査区はその対象範囲の地形などからY軸が第1次調査のそれよりも西に $45^\circ$ 傾く形となっている。次にA区南西辺およびB区南辺に幅 $1\text{ m}$ のトレンチを設定して掘り下げを行い遺構・遺物の分布状況と遺構検出面までの深さや堆積土層の状況などについて把握している。調査対象面積は $1,500\text{ m}^2$ である。

その結果、東側農道部分で遺構が密集し、西側の標高が高くなる所では遺構・遺物共に希薄となる様相が認められ、さらにその西側では殆ど遺構が存在しないことが確かめられた。従って、本第2次調査区は遺跡の西端に位置することが推測できたが、後に調査区全体の表土を剥ぐことでその状況はさらに明瞭となった。また、調査の進展により地點的な内容がより明確となり、第1次調査で予測された環状となる集落景観ないし構造の一端が実証されることとなって感動的ですらあった。後でも触れるが環状集落を主体的に形成するロングハウス型の大型竪穴住居群の外帯に最終帶とでもいべき掘立柱で構成される建物群が明確に検出されたのである。この成果は、B区中央部に形成された捨て場部分（施工方法により現状保存された）や烟地として利用されることから遺構上面の検出に止めたC-14~18グリッド（C区）の不鮮明さをみごとに補完してくれる成果であり、改めて本集落跡の意図的・企画的な配置や有り様を認識させた。この調査で検出された大型の竪穴住居跡は5棟、附随した掘立柱建物跡が4棟、時期的に後続する円形プランの竪穴住居跡が5棟、大型のフ拉斯コ形土壙7基、その他多數のピット群と小土壙などであった。



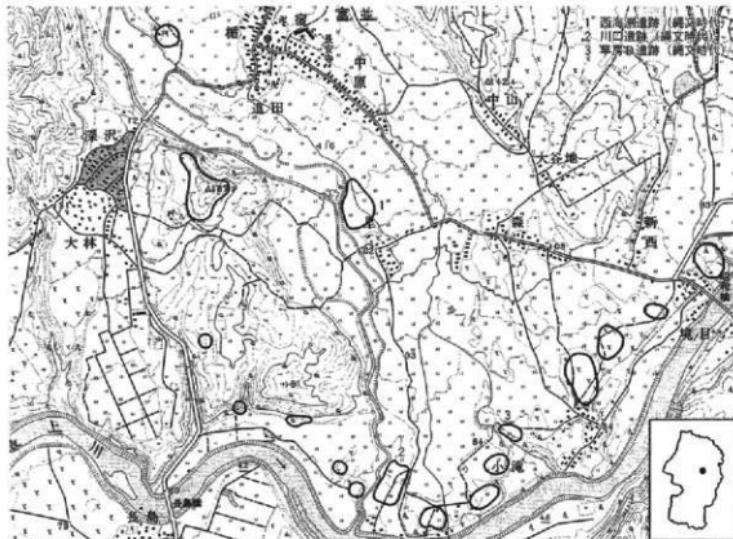
第1図 調査概要図

## II 遺跡の立地と環境

西海渕遺跡は村山市大字富並字西海渕に所在し、JR播磨岡駅から北西に約7kmの富並地区中央部に位置している。遺跡の南には葉山を源とする富並川の清流が深い段丘崖を形成して西から東へと流れ下り、川床との比高にして約10m近い急崖をその左岸に見せる。また、遺跡南縁に沿って東流する富並川は西海渕の神社が鎮座するある辺りで蛇行し内湾状の小さな入り江を形成している。縄文の昔と変わらぬ景観が今日にも伝えられていることを連想させるこのロケーションは、初冬には鮭の大群が遡上して産卵する光景までをも想起させて往時の営みを偲ばせてくれる。なお、鮭の人工孵化事業は現在も細々ながら続けられ、初夏には桜鱒の遡上に村人の心が騒ぐ。

平成元年の分布調査結果によれば、遺跡の拡がりは東西200m以上×南北230mとされ集落としては極めて大規模例と捉えられる。標高は107~109m内外、地目は水田及び畠地であったが、開田以前の地形的起伏を所々に止めていることも観察された。

この地域に確認される縄文時代の集落は現在のところ川口遺跡などの他15箇所が知られている。これら遺跡の分布は、最上川左岸段丘に沿う遺跡群、富並川の主として左岸に沿って点在する拠点的な遺跡群、およびそのさらに上流部の大高根南麓の裾部に立地する遺跡群などに大別でき、最上川や富並川を一つの拠り所として展開していた当時の集落の在り方が理解される。



第2図 遺跡位置図 (S=1:25,000)

### III 遺跡の概観

#### 1 調査区と層序

調査区は高位段丘面の縁辺を占地し、比高差10m近い急崖が遺跡の南辺を縁どっている。今次対象とした調査区はA区が水田、B区が周囲より一段高い畑地であった。

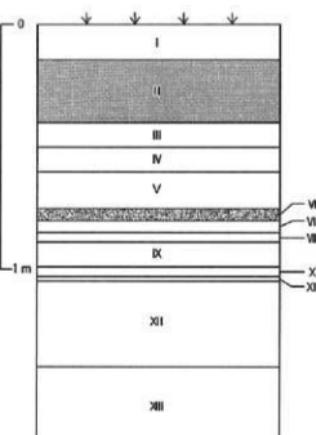
調査では東側の調査区をA区、南北に流下する里堀の対岸に位置する西側調査区をB区と命名した。今次調査域で主体となったA区の土層を基として、そこでのI-2区で行った深掘地点での基本層序を記しておこう。

I層：表土（水田耕作土） II層：クロボク土  
III層：ローム質シルト（漸移層） IV層：ローム質シルト（明） V層：ローム質シルト（暗）  
VI層：肘折バミス（粒状） VII層：ローム質シルト VIII層：褐色砂砾 IX層：ローム質シルト X層：ローム質シルト XI層：白色火山灰 XII層：ローム質シルト（灰褐色） XIII層：ローム質シルトとなる。遺構の検出面はII層下部からIII層上面であり、II層は多くの遺物を含む包含層ともなっていた。また、深いフ拉斯コ形土壙などでは検出面からの深さが80cm以上となるものがあり、その掘り込みは基本層位のバミス層下にまで及んでいた。

#### 2 遺構と遺物の分布

昨年度の調査から本遺跡は集落景観が円環形状を示し、中央に広場、次に墓壙群、その外側に貯蔵穴群、そして大型の所謂ロングハウス群などにより放射状に構成される極めて企画的・意図的に形成された大規模な環状集落跡であったことが判明している。

のことから、今年度調査区は集落西辺の外帯に係ることが予測でき、大型竪穴住居跡や付随する土壙群などの存在がある程度ながら推測された。事実、東側調査区（A区）からはロングハウスの他、時期的に後続する竪穴住居群などの遺構が密集して検出され、さらにその外側には掘立式と考えられる細長い建物跡群も明瞭に検出された。すなわち、これら遺構の存在と検出は予想通りの結果であり、改めて環状集落としての企画の正確さや規制などの有り様を認識させてくれたのである。また、第1次調査では不明確であった最外帯としての掘立柱建物跡群がロングハウスに附隨して放射状に配列される在り方が明瞭に確かめられたのも収穫である。従って、本遺跡の集落は、「広場、墓壙群、土壙群、大型竪穴住居群、掘立柱建物群」の少なくとも五重構造を示すことが明となり、第2次調査でもその広場、墓壙を除く中位から外帯にかけての円環部分に属した遺構群が検出されたと結論付けることができるだろう。



第3図 土層柱状図

13—

12—

11—

10—

9—

8—

7—

6—

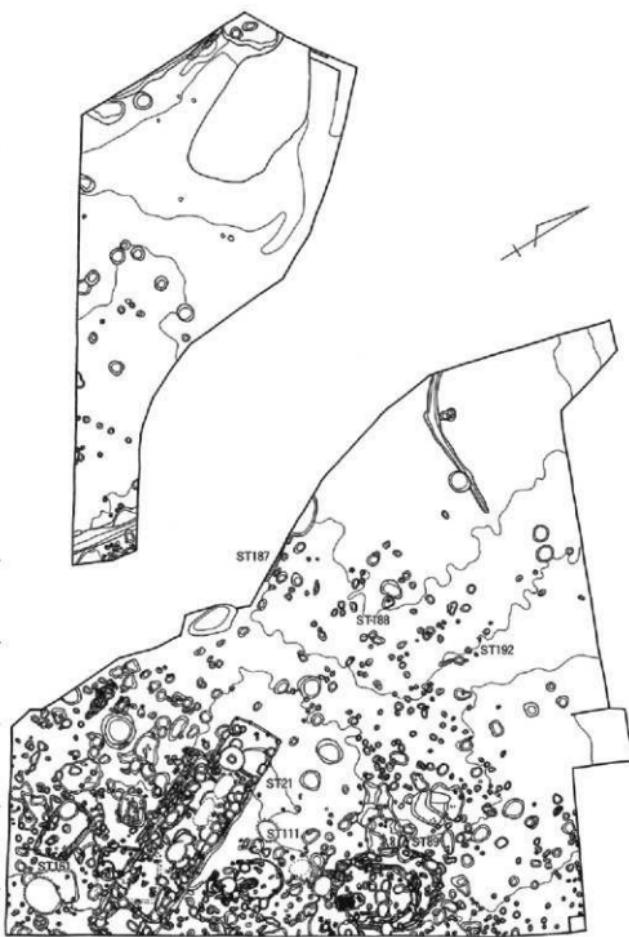
5—

4—

3—

2—

1—



第4図 造構配置図

## IV 検出された遺構と遺物

### 1 検出遺構

大型竪穴住居跡、所謂ロングハウスはST21・241・165とした明瞭な3棟の他、西南壁際に1棟などの存在が推測された。このうち状態の最も良い住居跡はST21である。ST21に平行してすぐ西側に隣接するST241は柱穴のみの遺存で、炉跡は削平されて不明であった。同様に炉跡の痕跡や柱穴列の配置から確認できたST165も既に床面下での検出と考えられ、その情報の大半は失われていたと看取される。一方、遺存状況の良いST21の例を見ると、南北方向の長辺で16m、東西短辺で4m規模のロングハウスと窺え、床中央に並ぶ焼土のまとまりが5箇所で確認された。このうちEL363には円礫を楕円形に配した石囲いがあり他の炉跡とは区別される特別な存在と認識される。

柱穴は竪穴住居が最低でも3回程度は建て替えられていることから煩雑な重複が認められた。これら柱穴の配列と組合せの検討から最大時点で1×7間規模の建物が推測でき、南東端の柱間を除けば1間が約230cm単位で企画されたことが推察される。また、この建物跡は壁際に幅25cm前後の周溝が巡っており、その繋がりから当初の建物が1×5間、全長9.5mないし11m規模の一回り小さなものであったことも理解される。なお、この竪穴の覆土中からは多量の炭化した稊が出土していることを付記しておく。

竪穴住居には上記のロングハウスの構築後に建てられたことが明らかな方形や倒卵形規格のものがあり、その様相は第1次調査の状況にも一致していた。

倒卵形プランのものでは小型で複式炉を持つST111や大型のST89などがあり、方形プランではST168・ST161がある。ST168は約4×3.5m、ST161はやや不整ながら2.4×3.7mの規模があり、両者共に簡素ながら石組や埋設土器を伴う所謂複式炉を伴っている。また、石組炉内の底面に一個体から複数個体の土器片を縦密に敷き詰めた特徴的な「土器敷炉」を持つ竪穴住居跡(ST89・325)は上記の倒卵形のプランを有し、長辺が約7m、短辺が約5m強のやや大型の竪穴住居跡となっている。

この住居跡は炉跡方向とも一致する建物軸線を基準として拡張された様子が明瞭に捉えられた。また、当初に構築された竪穴住居の大きさは床面下から検出された周溝や柱穴の配列からみて長軸5m、短軸で3.5mほどの規模だったことも窺い知れる。

掘立柱建物跡はA区の北側中央部に検出され、大型の竪穴住居跡ST21やST241の軸線上に乗るST187とST188が好例である。また、方向がやや東に触れるST192も同様の性格が考えられ、大型竪穴住居と対になる建物跡であったことが推察される。これら掘立柱建物の柱間は梁行で200~250cm、桁行で200~220cm前後の長さがあり、基本的には柱規模が異なるものの大型ロングハウスの間尺に近い数値と見て取れた。なお、最大のST187は全長が約9m、ST188は約8m、ST192は約7mの規模となる。

土壤群は大型建物の配置されたエリアと重なる位置に構築されており、相互の時期的な前後関係が窺えるが、その多くは所謂フラスコ形の土壤で貯蔵穴と判断できるものである。

規模的にその径が2mを超えるものや（SK240）、内部にほぼ完形の土器が倒置で据え置かれていた例（SK28、RP4）などが注目される。また、規模の小さい土壙（SP134）では石棒（RQ3）が横倒しで埋置される様子も観察された。

## 2 出土遺物

遺物は整理箱にして100箱ほどが出土しており、その大半を縄文土器（第16～20図）が占めている。その他では、石器（第21～23図）、石製品（第23図）、土製品（第15図）および堅果類の炭化種子（栗や胡桃）などが注目される。

これらは分析が充分でないため詳細が描めてないが、土器群の時期はその特徴からおよそ大木8b式に属するものが大半で、これらに先行する大木8a式後半段階のものを若干含む様相と捉えられた。

一方、土器敷の石圓炉や小型豎穴住居跡の複式炉に伴った大木8b式後半から大木9式前半段階のものも遺跡の変遷と終末期を考える上では見逃せない資料となる（第15図、第17図）。とりわけ土器敷の石圓炉を持つ豎穴住居の構築時期を示すST89・EL88に伴った土器（第16図）などは、復元によりキャリバー形の口縁を持つ深鉢形土器であることが確認でき、これらが所謂大型のロングハウス構築時期よりも確実に後出のものであると理解できることが重要である。また、EL113に代表される一群は本遺跡では最新の土器群と認識でき、住居形態も含めて本集落の終末期を示す様相および土器群と捉えられた。

土製品では土器片を再利用して作られた円盤状土製品や側縁を擦り磨いて三角形とする三角形土製品があり、附隨する紋様から見て大木9式期の所産と判別される。また、第1次調査でも注目された埴管形土製品（第15図15）の小片が1点ながら出土している。

石器は土器に比較すれば著しく少なく、とりわけ狩猟用の鎌や槍などの打製石器はほとんど組成されないという特徴が顕著である。その他の打製石器では石錐や石匙が定量みられ、範状石器などがやや多い類型と理解された。また、一定形態を有さない不定形剥片を利用する搔器や削器などは量的に多く、斧などの磨製石器は意外に少ないと見受けられた。

一方、凹石や磨石は本遺跡では極めて一般的に見られた石器でその出土量は多い。凹石は表裏面共に使われるものが大半で、さらに側縁や表裏面などに磨痕が観察されるものも少なくない。また、磨石専用と考えられる類型（第25図7～10他）は断面三角形の握り易い形状のものが選択されており、その幅薄の一側面が擦り面として専ら使用されることから、使用に際しての対象物の違いなどが想定される。また、これらが円形や梢円形の凹石兼磨石の部類とは異なる状況で検出されるなどの相違が認められなかつたことから見て、相互の時間差はほとんどないと推測される。

石製品では自然の川原石を用いた垂飾品2点（第23図4・5）と軟質の凝灰岩を用いて作製された鳥帽子形石製品1点がある（第25図11）。後者は最上町水木田遺跡や、鶴岡市岡山遺跡ほかに類例があり、通例では大木8a式期の土器群に伴って見られる呪術的な製品と考えられるものである。本例は土壙SK202からの出土であるが、時期的帰属を明確捉えられる共伴の土器は得られていない。

## V まとめ

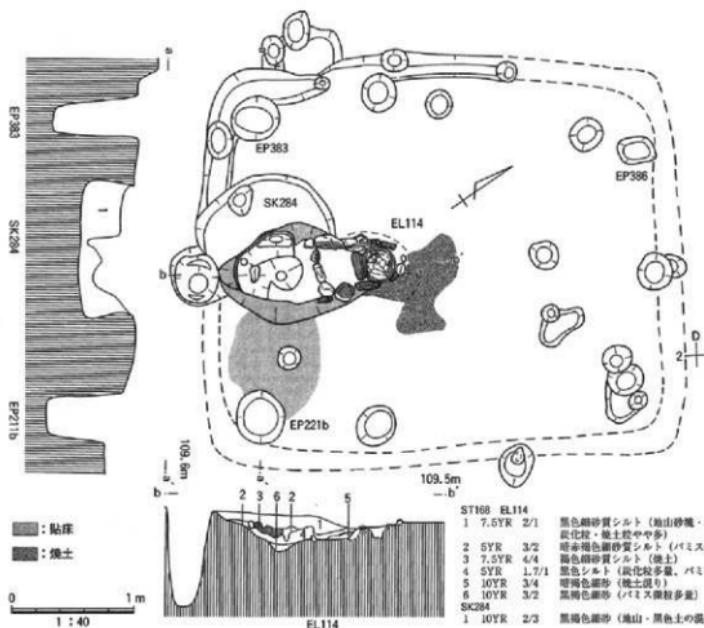
今回の調査成果は昨年度行なわれた第1次調査の上に立ってはじめて理解できる内容と言えるものである。従って、以下に第1次調査の成果について概観し、その中で本第2次調査の成果を限られた紙面ながら跡付けてみたい。

### 1 第1次調査の概要と成果

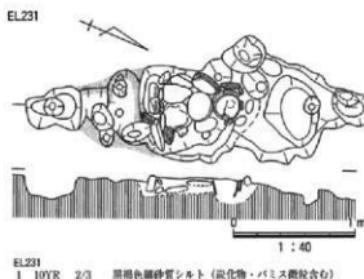
昨年の調査は遺跡の中心部分約12,000m<sup>2</sup>を対象として行われ、その内現状保存が可能な遺跡南西部（捨て場部分：遺物包含層など）約2,000m<sup>2</sup>を除いた約10,000m<sup>2</sup>について精査している。調査期間は4月からお盆過ぎ8月24日までの延べ90日という短期間であった。調査の結果、半径70m内外の円環にみごとに収まる所謂環状集落が検出された。大小の柱穴や掘込みの浅い小型の土壙があるだけで主体的な遺構の見られない中央広場を中心としてその周辺には長形150cmほどの小判形墓壙群が5～6群、総数にして約150基が取り巻いていた。その範囲は内径で15～17m前後、外径で30～35mの範囲である。また、その外側の住居域に至る空間は夥しいフ拉斯コ形土壙や大小の柱穴群で埋まり、その後には整然としかも放射状に展開する長軸15mを超す大型のロングハウスが総数25棟ほども立ち並んでいた。中央広場の中心から内径80m、外径120mの範囲である。加えて、第1次調査ではB区南半で検出されていたのだが、このロングハウスに附隨する掘立柱建物群がその外周に取り付くことが第2次調査を通して確認され、その構造は広場も含めれば五重構造を呈することが理解された。すなわち、「広場・墓壙群・土壙群・大型ロングハウス群・掘立柱建物群」の五重構造である。また、最外周の掘立柱建物群の位置までは直径140m近い円環となり、その円環の中にこれらの遺構が見事に収まっていた。一方、これらの精査を通して、環状集落の形成は大木8b式期の古段階より開始され、大木8b式期の後半には速くも当初の規格から外れる円形や倒卵形プランの住居が出現して集落構成の規制が急速に廃れて行った様子が看取された。これらの事情は円形基調の竪穴住居出現とロングハウスの炉に埋設された土器および後者の土器敷石囲炉に用いられた土器群の遷移などがその間の経緯を語ってくれる。また、墓壙群の解明はこの環状集落の意味するところを解く重要な鍵になると考えられ、当時の社会組織究明にとっては格好な資料を提供したと考えられる。

### 2 第2次調査の概要と成果

第2次調査の概要と成果は本文に記した通りであるが、一番の成果は第1次調査では不明であった北西半部分の集落構造を明らかにしたことである。また、その成果により本遺跡が正に直径約140m規模の大環状集落であり、加えてその最終外帯に掘立柱建物群が位置したと結論付けられたことに意義が求められる。以上のように、本遺跡の調査は縄文時代的一大集落をほぼ全域にわたって調査し得た本県においては初の事例であり、その知見から得られる成果は今後の縄文時代研究の進展にとって測り知れないほどの貴重な財産となるものであることを確信している。

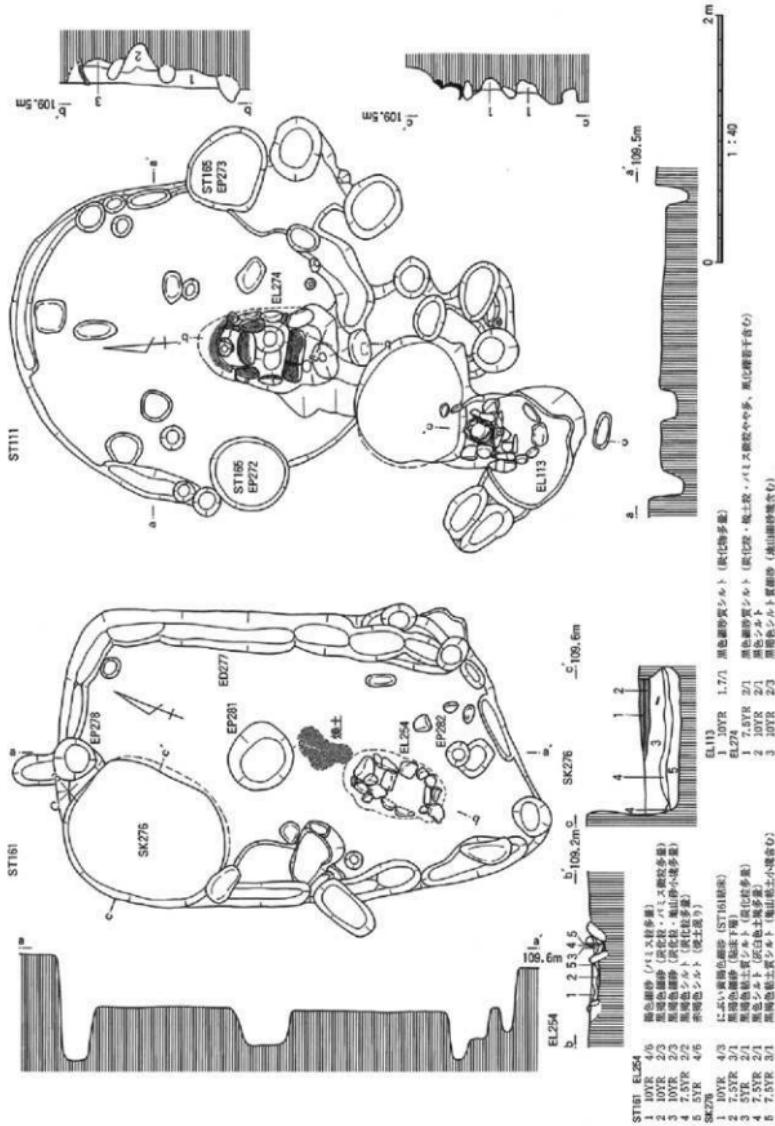


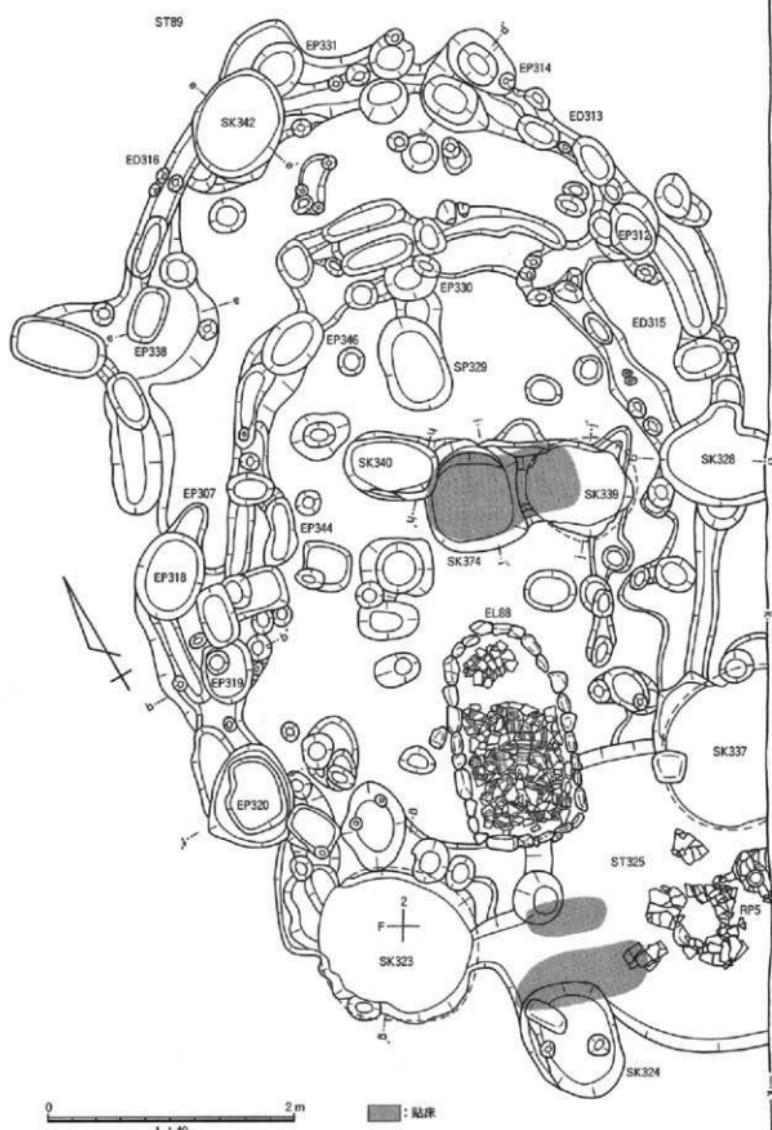
第5図 ST168住居跡



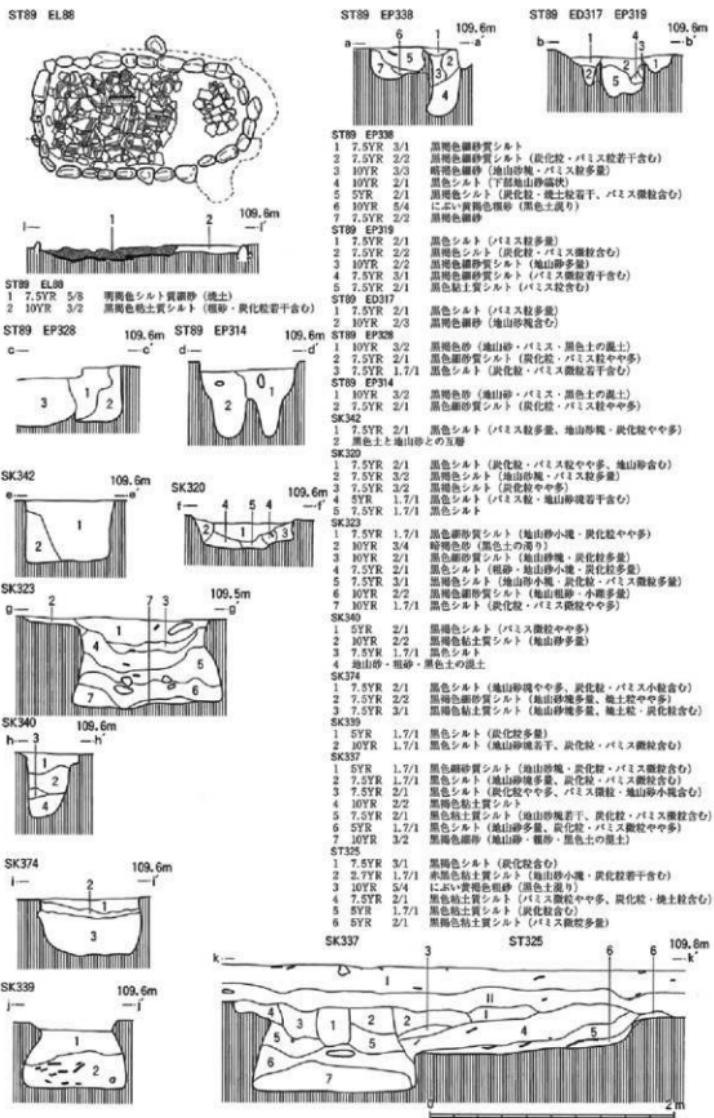
第6図 EL231炉跡

第7図 ST161・ST111住居跡

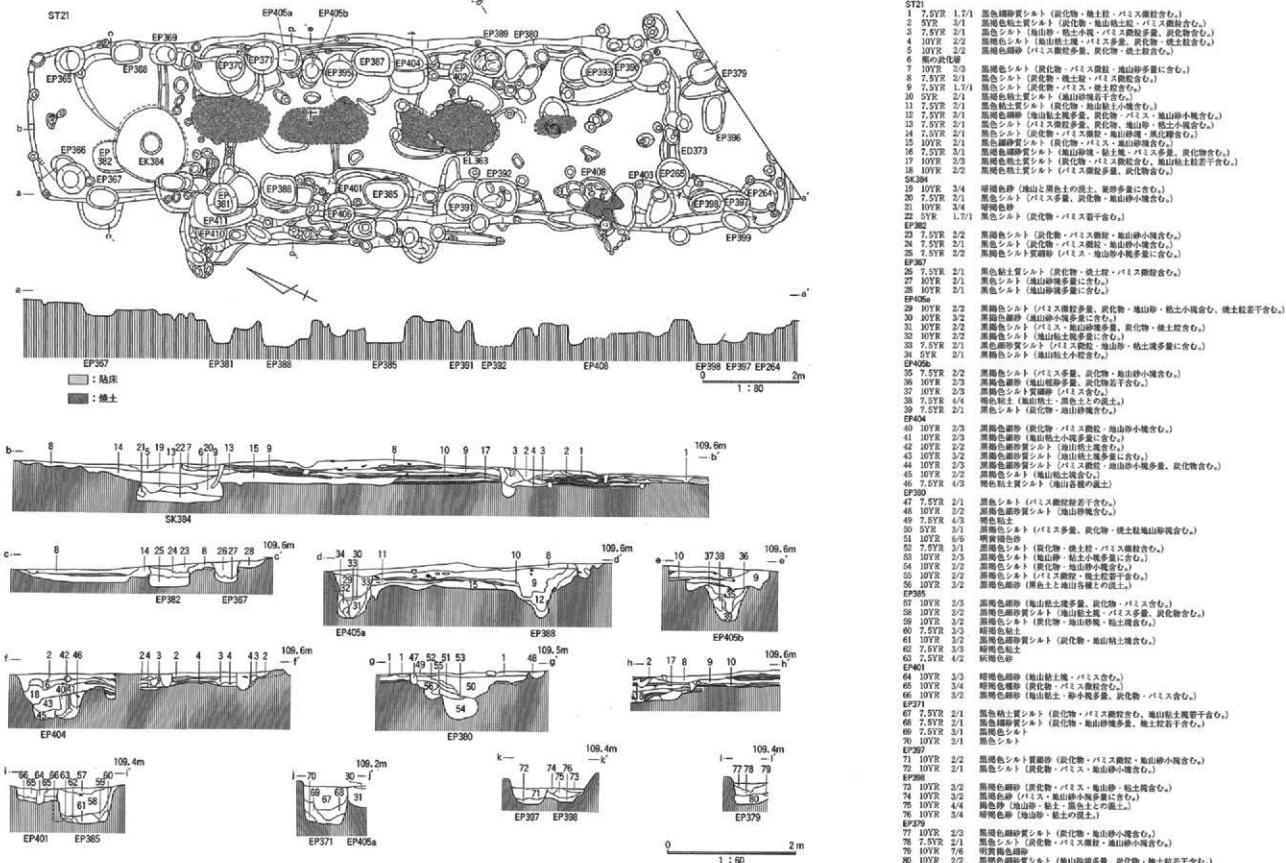




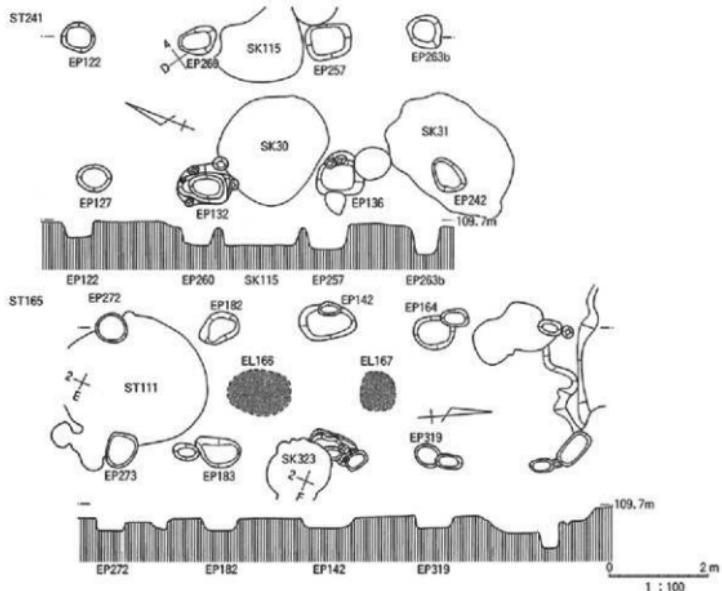
第8図 ST89・ST325住居跡(1)



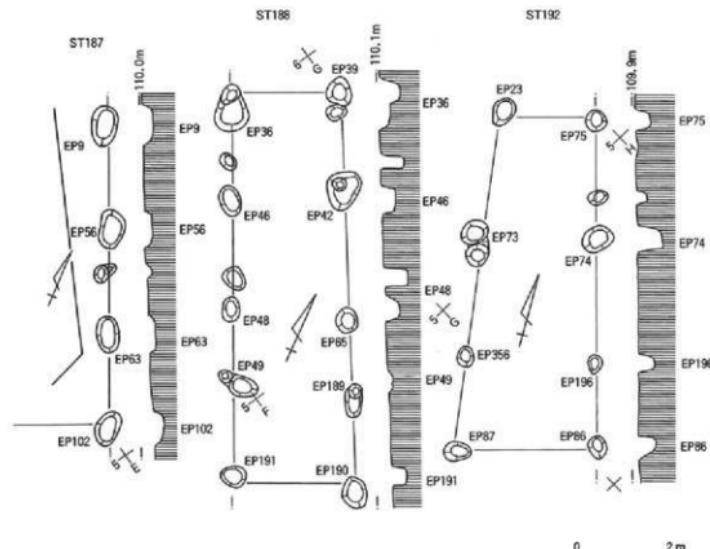
第9図 ST89・ST325(2)住居跡



第10図 ST21住居跡

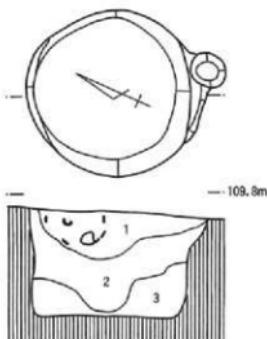


第11図 ST241・ST165住居跡

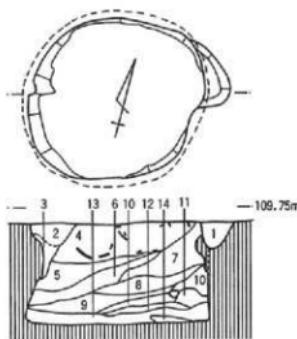


第12図 ST187・ST188・ST192住居跡

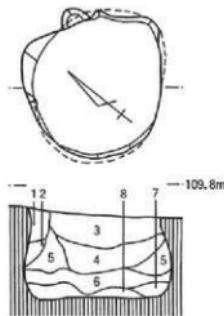
SK27



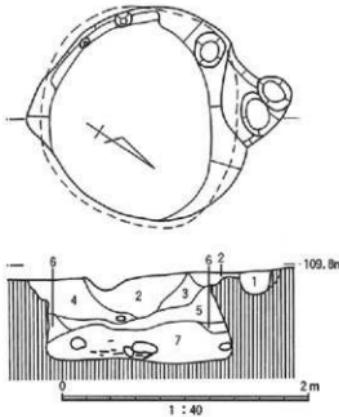
SK28



SK29



SK30



SK27

- 1 7.SYR 2/1 黒色シルト (炭化物・バミス粘・地山砂・  
黒褐色土質に含む。地山砂や若干含む。)
- 2 10YR 1.7/1 黑褐色シルト (炭化物質に含む。)  
(炭化物やや多く含む。地山砂幾度に混入。)
- 3 10YR 5/6 黄褐色砂 (地山重層土。黒色土質に混入。)
- 4 10YR 2/1 黑褐色シルト (炭化物質に含む。)

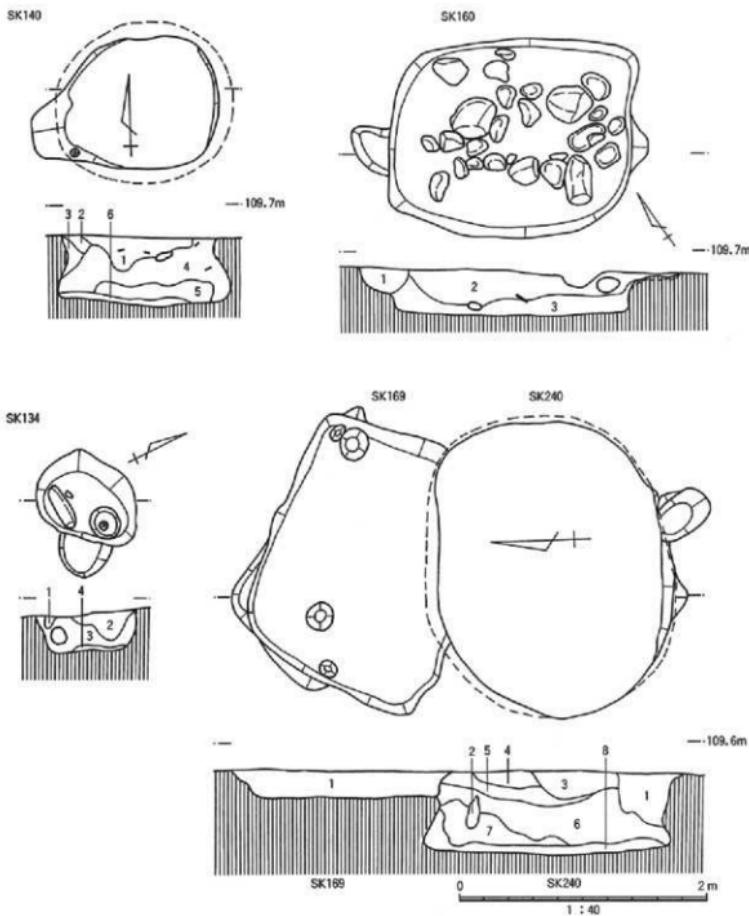
SK28

- 1 7.SYR 2/1 黑色シルト (炭化物質に含む。)
- 2 10YR 2/2 黑褐色シルト (炭化物・地山砂等多量に含む。)
- 3 10YR 3/4 黑褐色砂
- 4 10YR 2/1 黑褐色シルト (炭化物質に含む。)
- 5 10YR 1.7/2 黑色粘土質シルト (炭化物合む。地山砂やや含む。)
- 6 10YR 2/2 黑褐色粘土質シルト (炭化物・地山砂等多量に含む。)
- 7 7.SYR 2/1 黑褐色粘土質シルト (炭化物・地山砂等多量に含む。)
- 8 10YR 4/6 黑褐色シルト質粘土 (黒色土塊状に含む。)
- 9 7.SYR 1.7/1 黑色粘土質シルト (バミス微粒若干含む。)
- 10 10YR 1.7/1 黑褐色粘土質シルト (炭化物小量若干含む。)
- 11 10YR 4/6 黑褐色シルト質粘土 (地山砂等多量に含む。)
- 12 10YR 4/6 黑褐色シルト質粘土 (黑色土塊状に含む。)
- 13 10YR 1.7/1 黑褐色シルト (炭化物質・地山砂微量若干含む。)
- 14 10YR 4/6 黑褐色シルト質粘土

SK29

- 1 7.SYR 2/2 黑褐色シルト (バミス微粒やや多く含む。)
- 2 10YR 3/4 黑褐色砂
- 3 7.SYR 2/1 黑褐色シルト (炭化物・バミス粘・地山砂等やや多く含む。)
- 4 7.SYR 2/1 黑褐色粘土質シルト。  
(バミス微粒多量に含む。炭化物・地山砂等やや多く含む。)
- 5 7.YR 1.7/1 黑褐色シルト (炭化物質やや多く含む。地山砂小塊若干含む。)
- 6 10YR 2/1 黑褐色粘土質シルト (炭化物・地山砂等やや多く含む。)
- 7 7.SYR 1.7/1 黑褐色シルト
- 8 10YR 4/4 黑褐色シルト質粘土 (地山砂・黒色土の混土。)
- 9 7.SYR 2/1 黑褐色粘土質シルト (バミス微粒多量に含む。)
- 10 7.SYR 2/1 黑褐色シルト (炭化物若干・バミス粘・地山砂等含む。)
- 11 10YR 5/6 黑褐色砂 (地山砂・膠泥・黒色土の混土。)
- 12 10YR 2/2 黑褐色粘土質シルト (炭化物・バミス粘・地山砂等混合む。地土粒若干含む。)
- 13 7.SYR 2/1 黑褐色シルト (バミス粘・地山砂等混合む。地土粒若干含む。)
- 14 7.SYR 2/1 黑褐色シルト質粘土

第13図 土壌実測図(1)



**SK140**

- 1 ~ 2.5YR 2/1 黒色細粒質シルト (炭化物・バニス微粒合む)
- 2 10YR 2/2 黒褐色シルト (バニス微粒合む)
- 3 10YR 3/4 明褐色砂
- 4 10YR 2/2 黑褐色細砂 (炭化物・バニス細粒・進山砂小量多量に含む)
- 5 10YR 4/4 黑褐色粗砂 (進山砂・粗砂・黒色土の混土)
- 6 10YR 2/1 黑褐色粘土質シルト
- 7 10YR 2/1 黑褐色粗砂 (バニス微粒・進山砂混合む)

**SK160**

- 1 7.5YR 2/1 黑色細粒質シルト (炭化物・バニス微粒合む)
- 2 10YR 2/3 黑褐色粘土質細砂 (バニス微粒多量・炭化物・進山砂混合む)
- 3 5YR 2/1 黑褐色粘土質シルト (バニス微粒・進山砂混合む)

**SK134**

- 1 深灰
- 2 7.5YR 2/2 黑褐色シルト (炭化物・バニス微粒・進山砂混合む)
- 3 5YR 2/1 黑褐色シルト (炭化物・粘土質・バニス微粒合む)
- 4 7.5YR 3/3 黑褐色粘土質シルト (進山砂・鐵鉄多量に含む)

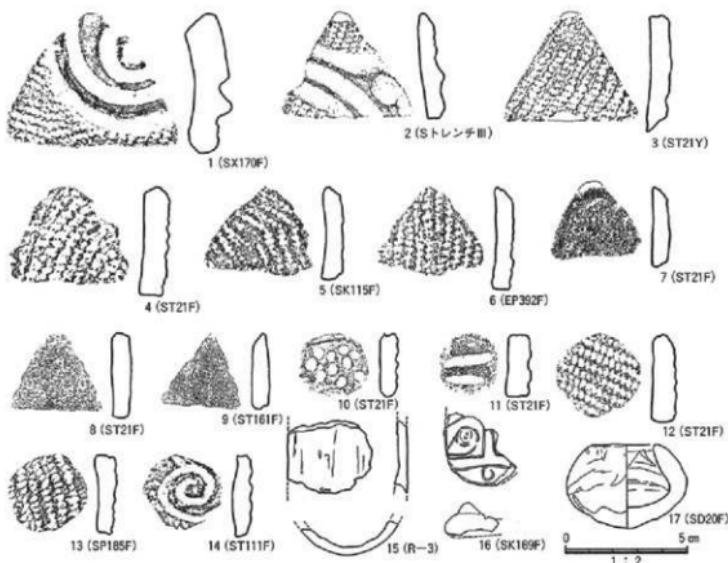
**SK169**

- 1 10YR 2/1 黑色細粒質シルト (炭化物・バニス粒合む)
- 2 5YR 1.7/1 黑色細粒質シルト (バニス微粒合む)
- 3 10YR 3/2 黑褐色細粒質シルト (炭化物・進山砂・粘土質多量に含む)
- 4 7.5YR 3/2 黑褐色シルト (進山砂・風化塵・バニス粒多量)
- 5 7.5YR 5/4 にぶい褐色熟土 (炭化物・バニス粒合む)
- 6 7.5YR 4/3 褐色砂 (進山砂・黑色土の混土)
- 7 7.5YR 5/4 にぶい褐色熟土 (バニス粒合む)
- 2 10YR 2/3 黑褐色粘土 (バニス粒・進山砂・粘土質多量に含む)

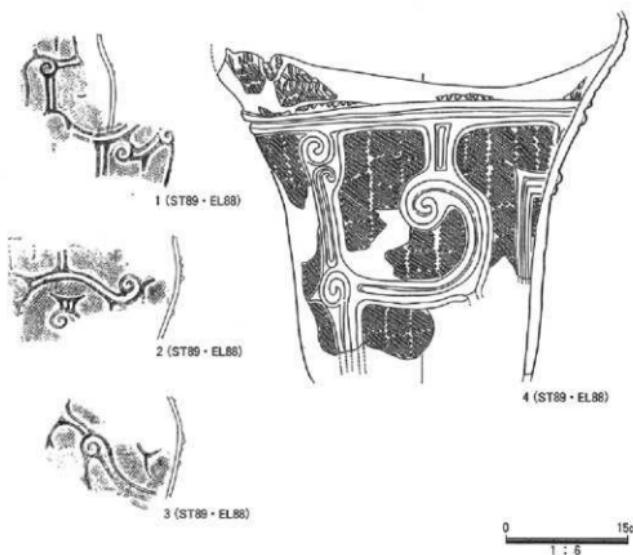
**SK240**

- 1 5YR 1.7/1 黑色細粒質シルト (バニス微粒合む)
- 2 10YR 3/2 黑褐色細粒質シルト (炭化物・進山砂・粘土質多量に含む)
- 3 5YR 3/1 黑褐色シルト (進山砂・バニス粒多量・炭化物合む)
- 4 7.5YR 3/2 黑褐色シルト (進山砂・風化塵・バニス粒多量)
- 5 7.5YR 5/4 にぶい褐色熟土 (炭化物・バニス粒合む)
- 6 7.5YR 4/3 褐色砂 (進山砂・黑色土の混土)
- 7 7.5YR 5/4 にぶい褐色熟土 (バニス粒合む)
- 2 10YR 2/3 黑褐色粘土 (バニス粒・進山砂・粘土質多量に含む)

第14図 土壤実測図(2)



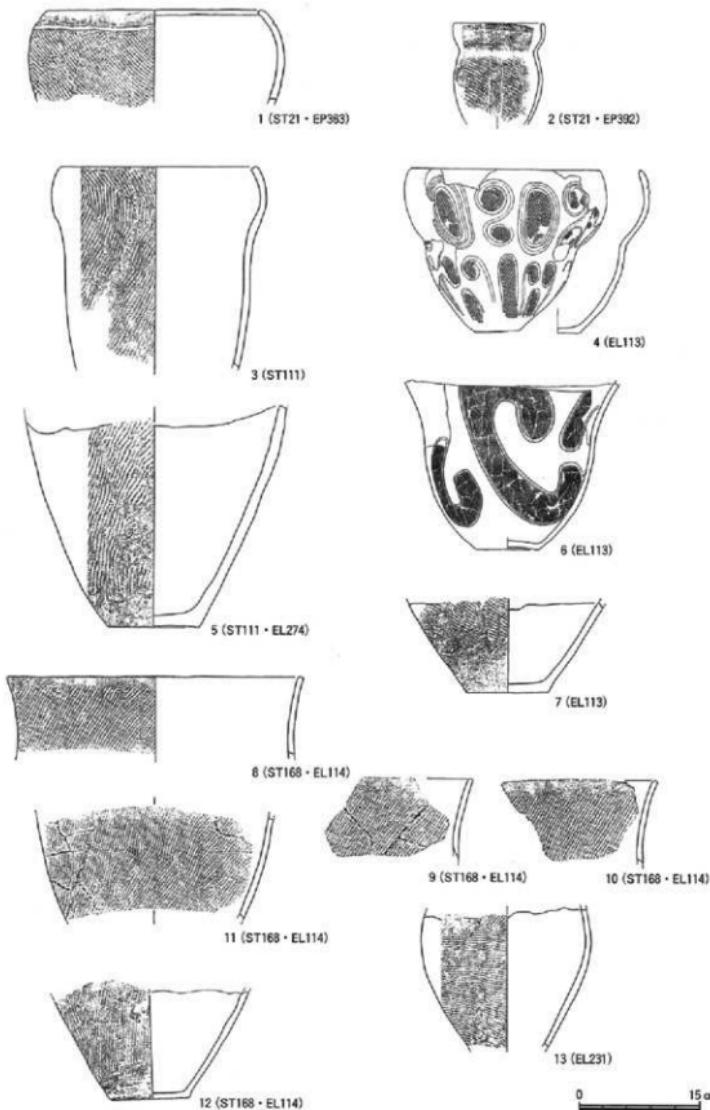
第15図 土製品実測図



第16図 土器実測図

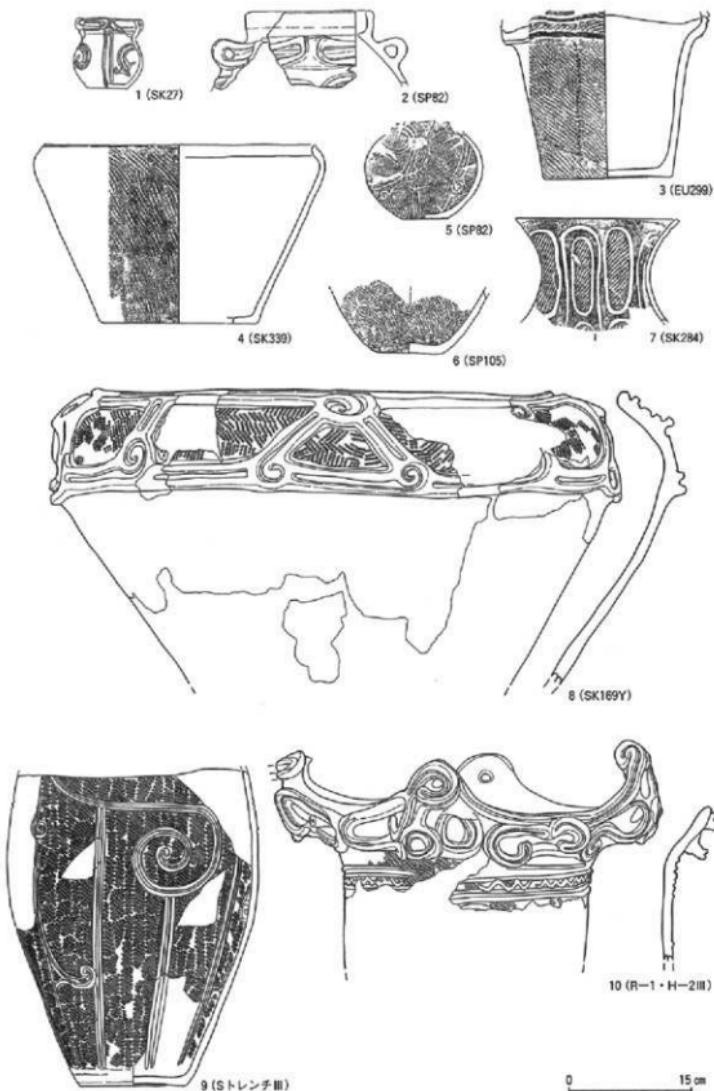


第17図 土器実測図(2)

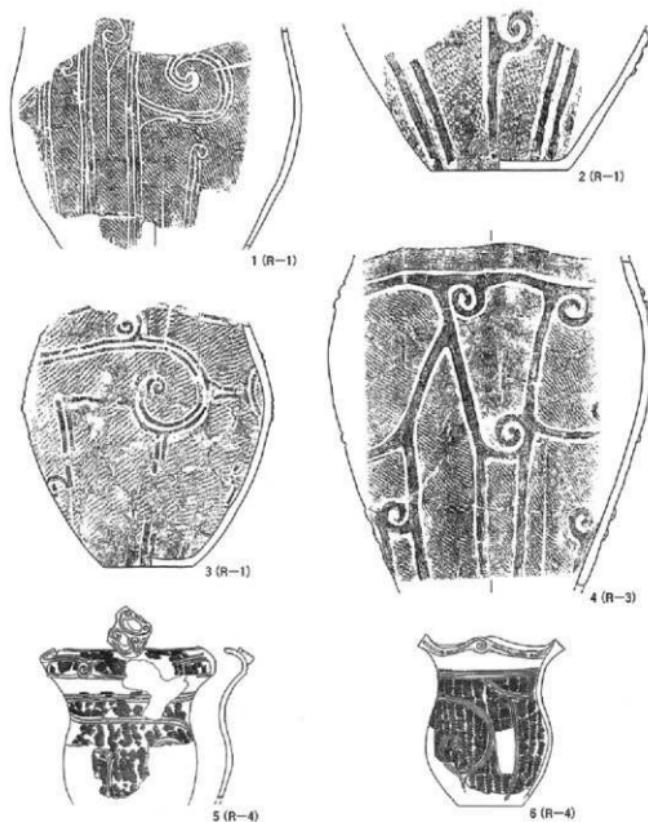


第18図 土器実測図(3)

0 15 cm  
1 : 6

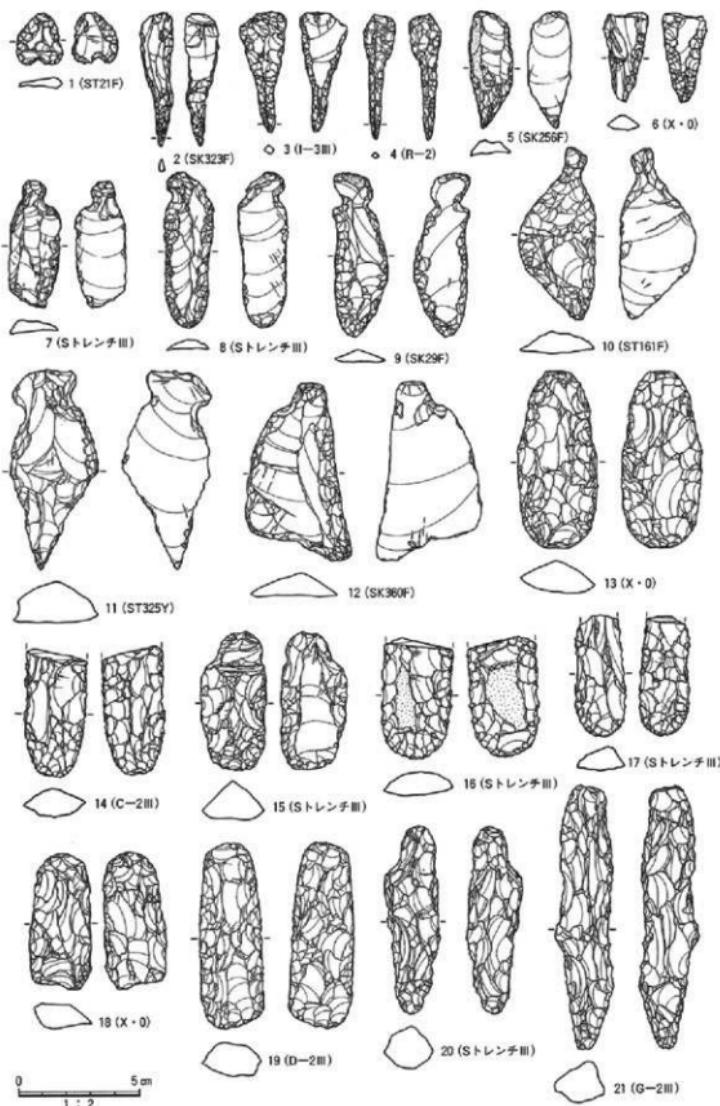


第19図 土器実測図(4)

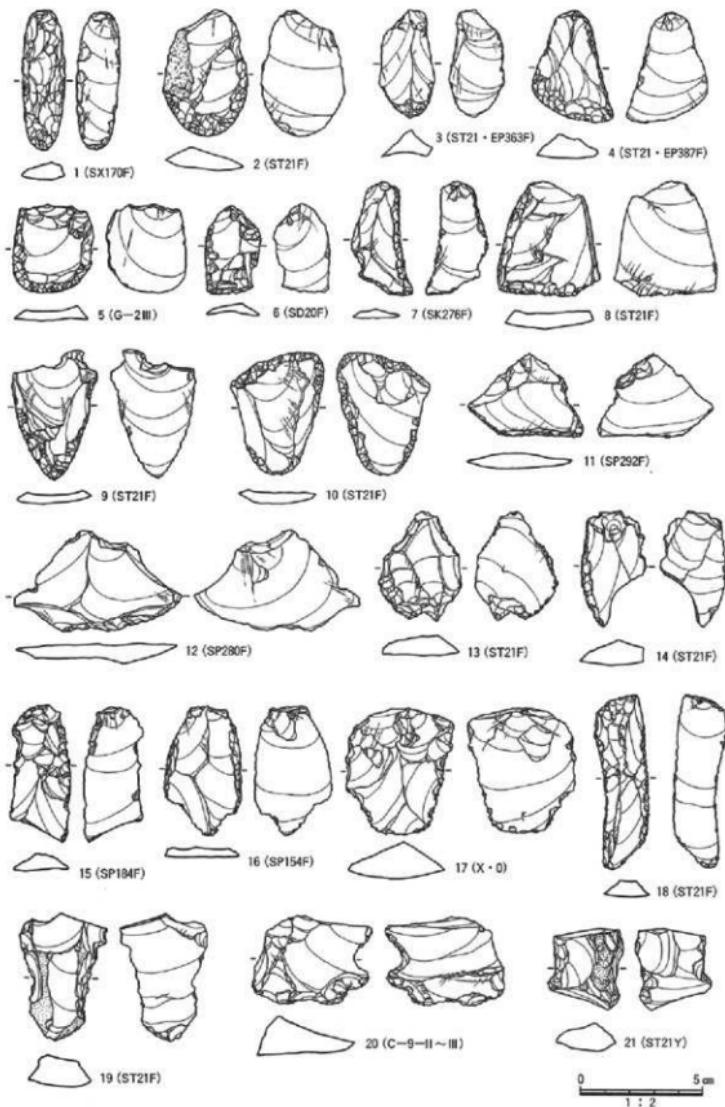


0 1 : 6 15 cm

第20図 土器実測図(5)



第21図 石器実測図(1)



第22図 石器実測図(2)

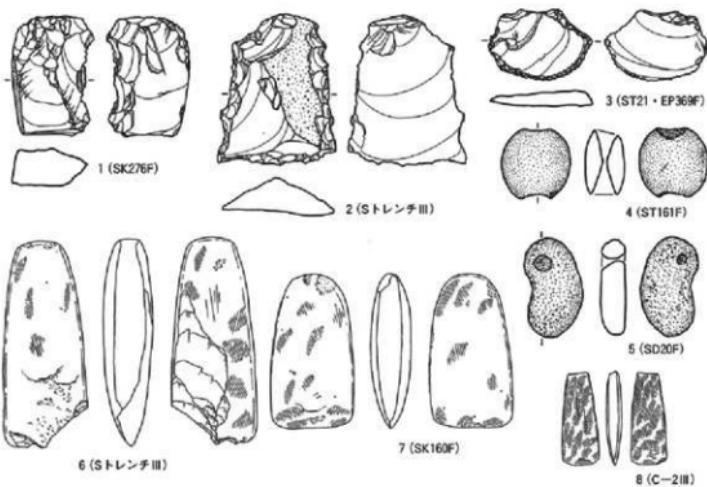
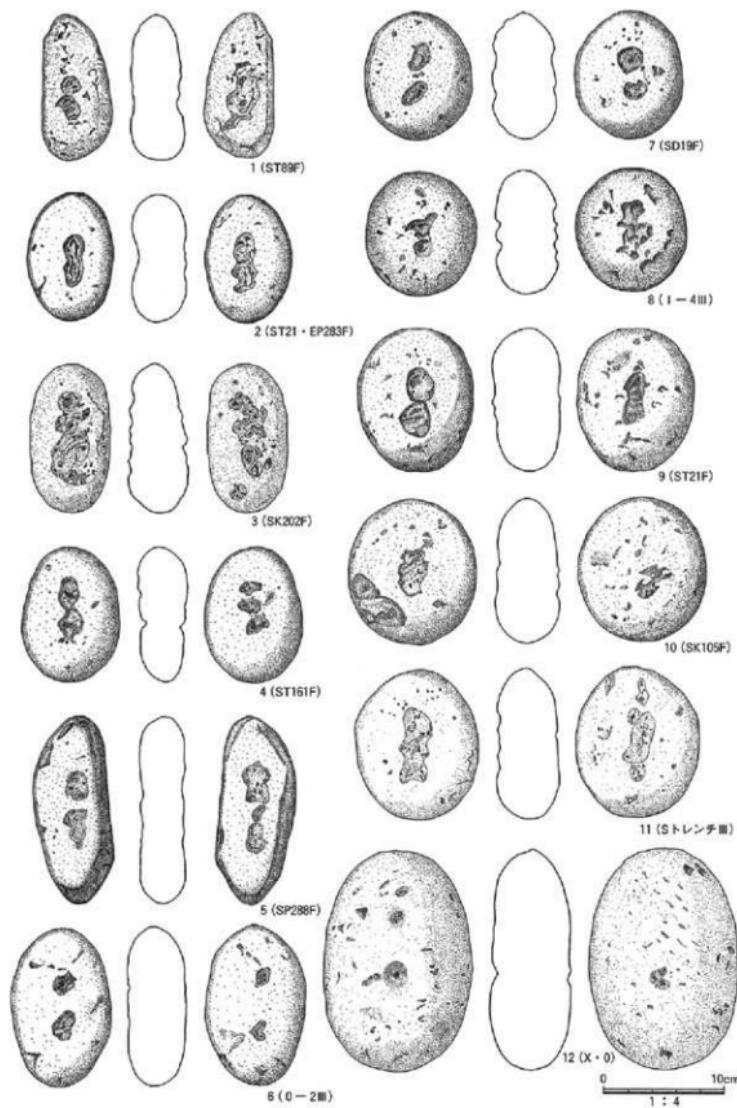


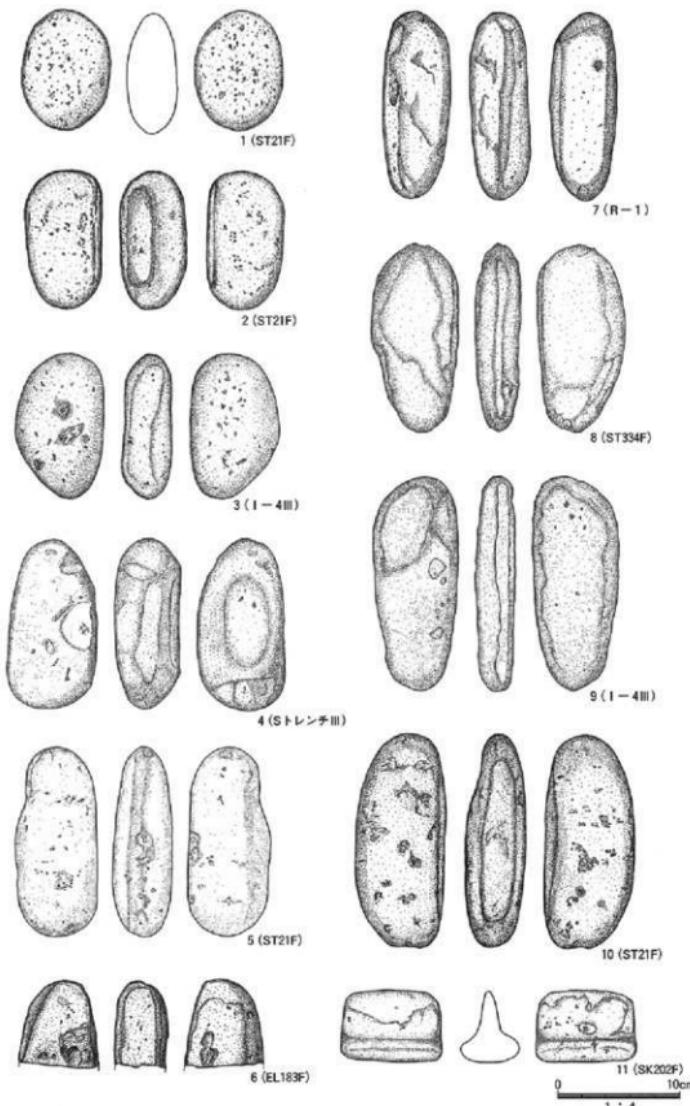
図6～8は(1/3)

0 5cm  
1 : 2

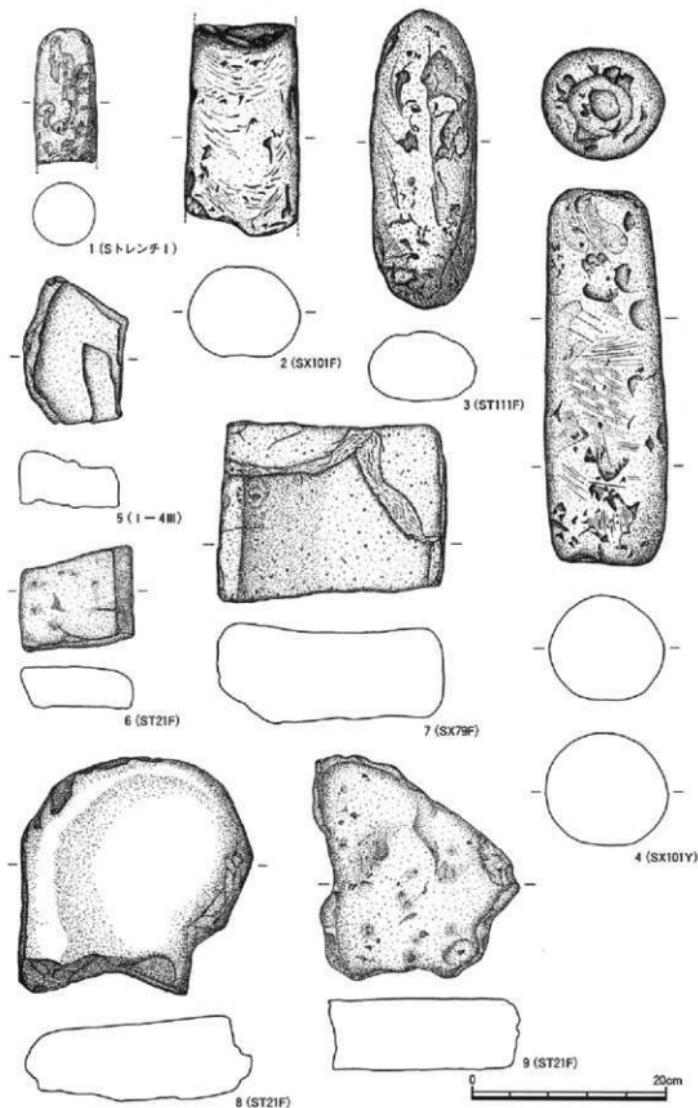
第23図 石器実測図(3)



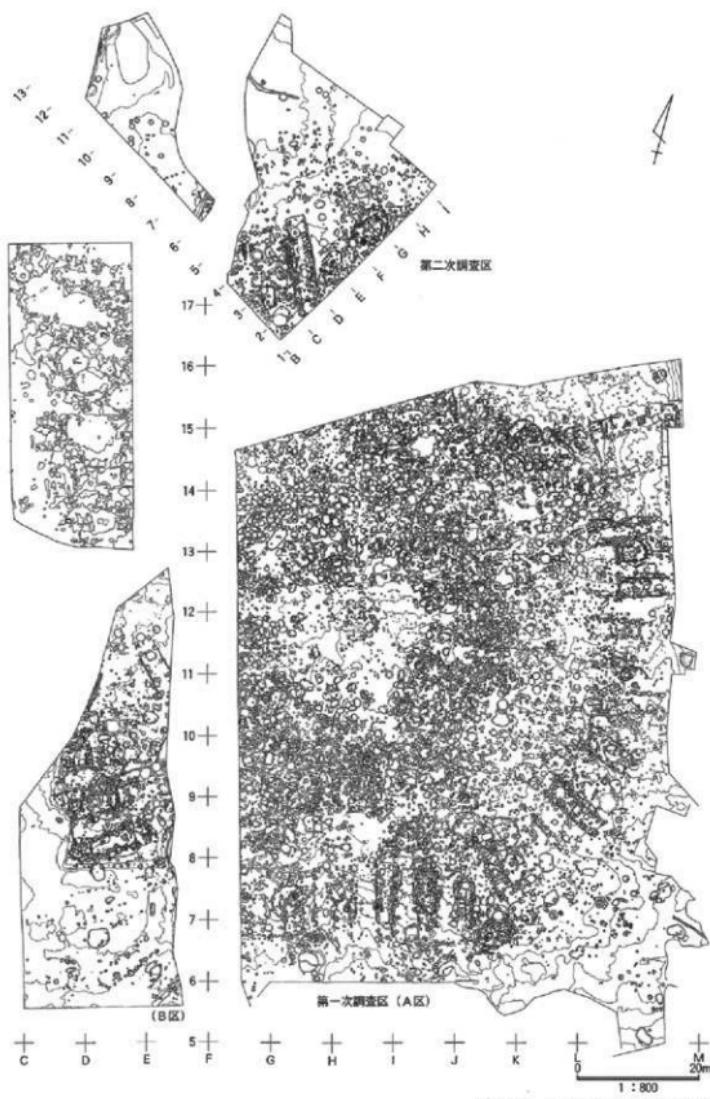
第24図 石器実測図(4)



第25図 石器実測図(5)



第26図 石器実測図(6)



第27図 遺構全体図 (1:800)

図 版



調査区全景（北から）



調査区近景（南から）



ST21完掘状況（北から）



ST21炭化栗出土状況



ST21EL363（西から）



ST89完掘状況（北東から）



ST89EL88（北東から）



ST325（北から）



ST111完掘状況（南西から）



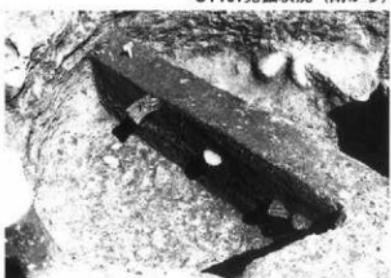
ST111EL274（西から）



ST161完掘状況（南から）



ST161EL254（南から）



SK276（南東から）



EL231（北東から）



ST168完掘状況（西から）



ST241（北から）



ST168EL114（西から）

図版4



ST165（西から）



ST187・ST188・ST192（北から）



SK28土層断面（南西から）



SK28RP 4 出土状況（東から）



SK28RP 6 出土状況（南西から）



SK29土層断面（南東から）



SK169RP 2 出土状況（南西から）



SK323土層断面（北から）



SK134RQ 3 出土状況（東から）



SK160完掘状況（北から）



20—7

19—10



16—4



19—9



18—4



20—3

出土土器(1)

※20—7 は第20図7番を意味する



19-8



17-8



18-13



17-4



18-6

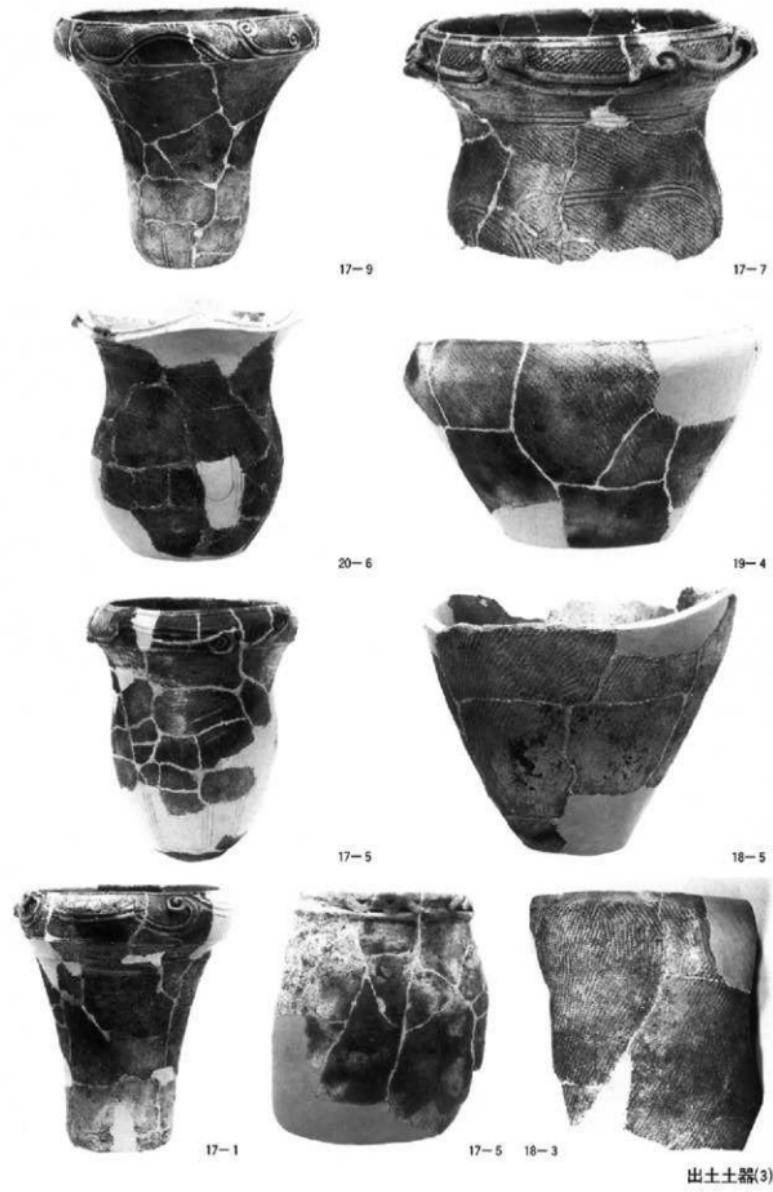


20-5



20-5  
出土土器(2)

図版 8





16-2

16-1

17-6



20-4



20-1



19-3



19-7



19-5



19-2



19-6



17-3



19-1



18-7



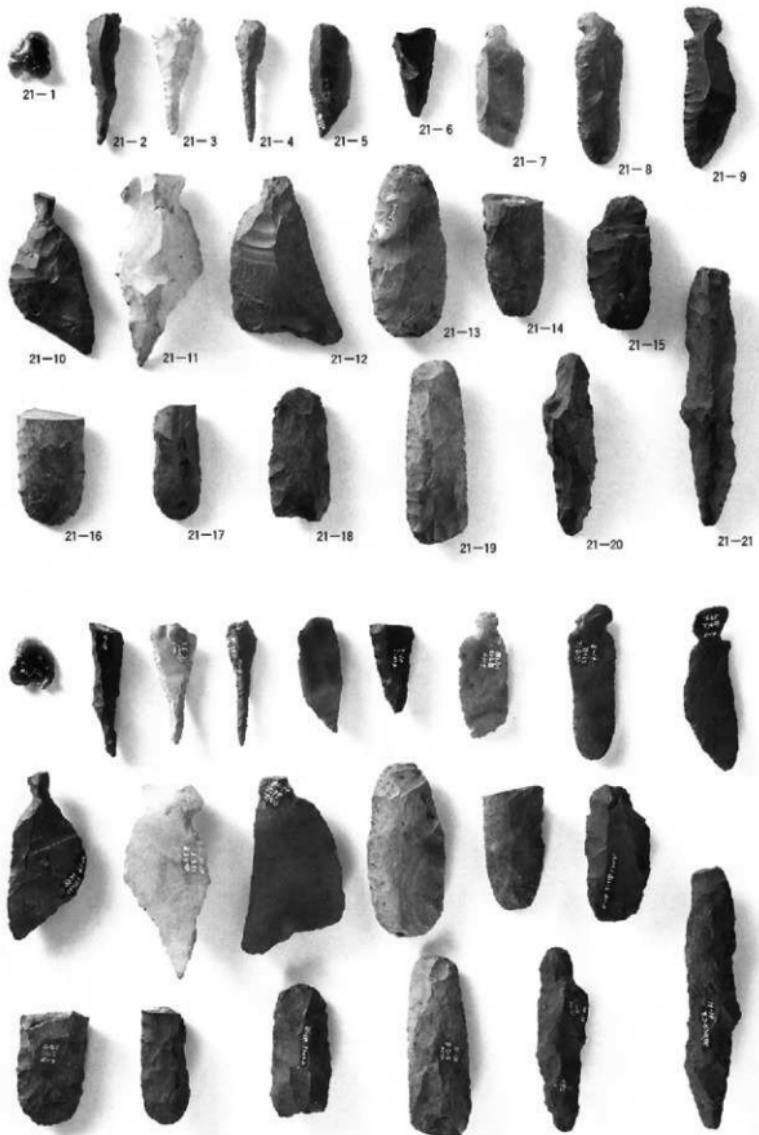
18-1



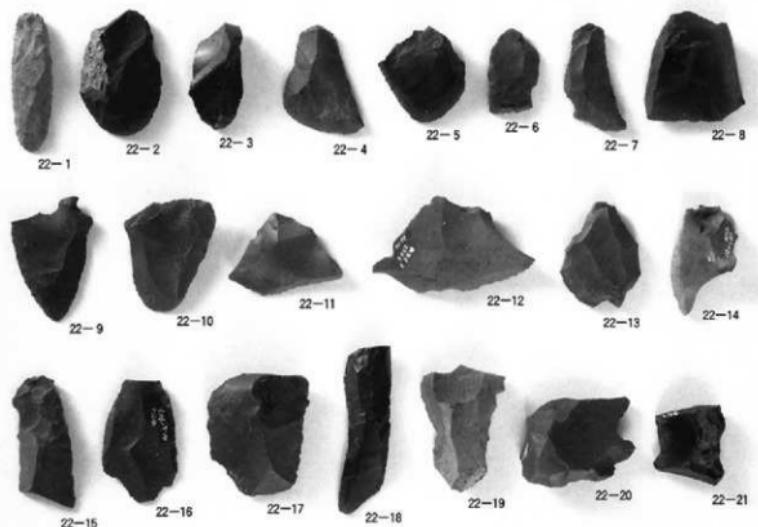
15-17

出土土器(4)

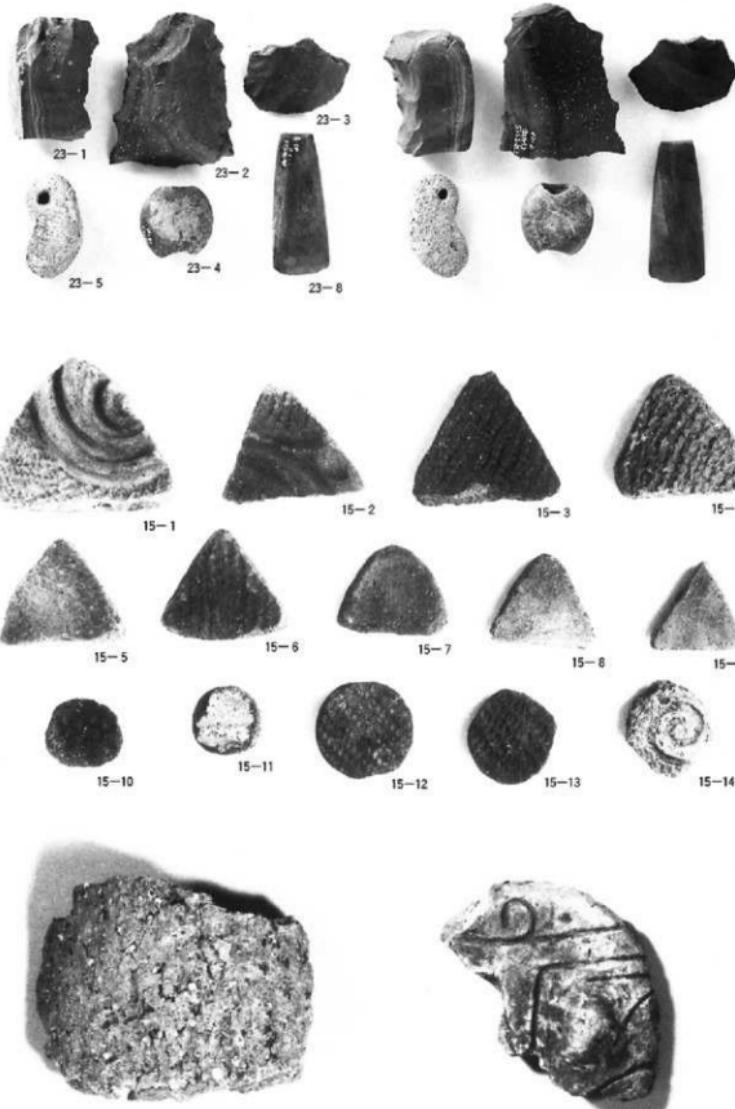
図版10



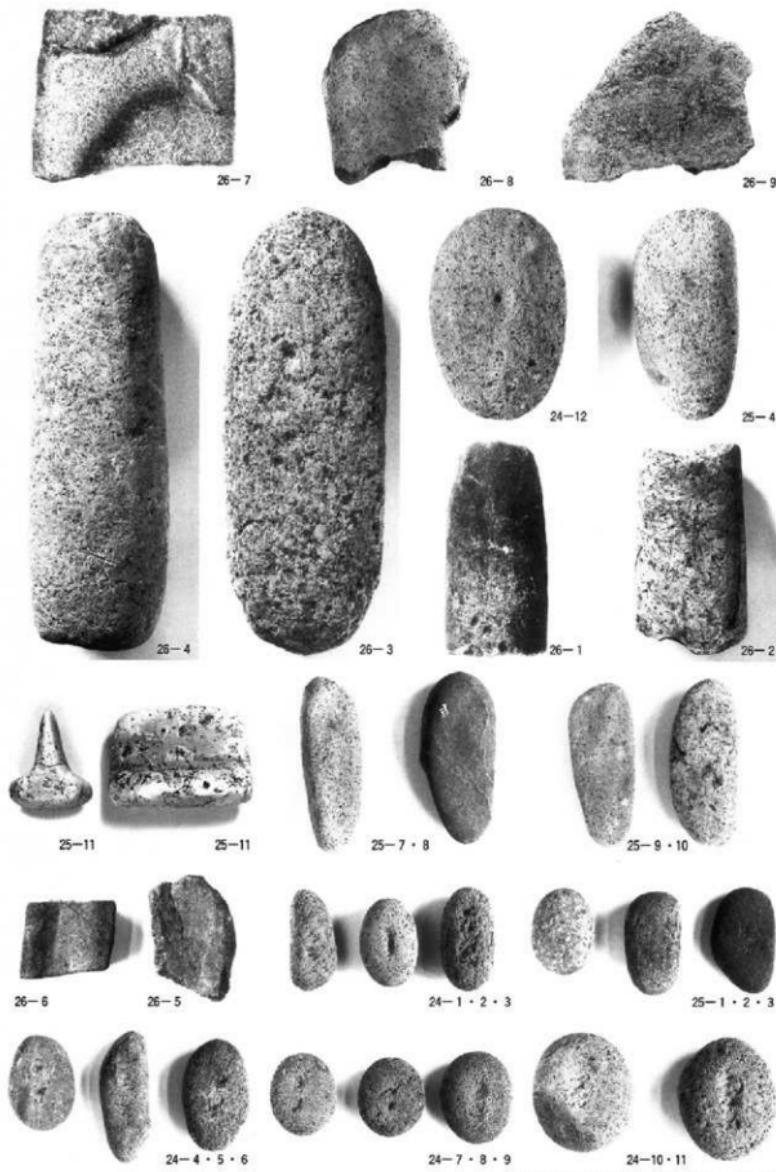
出土石器(1)



図版12



出土石器(3)・土・石製品



出土石器（石皿・石棒・凹石・磨石）

---

山形県埋蔵文化財調査報告書第174集

西 海 渕 遺 跡  
発掘調査報告書

平成4年3月25日 発行

発行 山形県教育委員会  
印刷 山形印刷株式会社

---